義太夫

義太夫協会会報
第 75 号
平成14年7月15日
社団法人　義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11　文明堂3F
TEL・FAX (3541) 5471
http://www.ne.jp/asahi/
gidayu/jyoururi/index.htm

賛助会員感謝のつどい開催さる

―はとバスツアー体験記―

皇居前で記念撮影

風薫る五月、久し振りに正会員と賛助会員の親睦会が催されました。この催しは、「もっと、会員相互の交流の場を！」という、景山会長の発案で企画されたものです。理事会で任命されたT幹事が熟慮の末、数あるバスツアーの中から「講談師と行く花のお江戸」―東京の旧跡、赤穂義士ゆかりの地めぐり―を選び、五月十二日（日）に実現の運びとなりました。

午前九時半、歌舞伎座向いの文化堂前に集合。会長はじめ正会員十五名、賛助会員十名からなるメンバーは、ワクワク、ドキドキ？しながら、はとバスへと乗り込みました。

♡

まずは、皇居東御苑見学。北詰橋門をくぐって天守台を臨むと、ここは「皇居」の中というより、やはり「江戸城」。ここでのお目当ては、松の大廊下跡です。江戸城で二番目に長い廊下で、北へ三十一メートル、西へ十九メートル、幅が五メートルの畳敷きだったそうです。

今日の案内役は、講談師の神田陽司さんです。名調子の解説に、皆頷いたり、笑ったり。その史実に基づいた、丁寧な解説と機知に富んだ話術に、一同すっかり魅了されてしまいました。

♡

次は、吉良邸跡です。実在の吉良上野介のイメージは、石坂浩二さんが近いとか。吉良さん本人は、自分の国では皆に慕われていたらしく、この刃傷事件の原因は諸説あるが、結局二人だけにしかわからない心の問題、相性ではなかったのでは？というのが、陽司さんが辿り着いた結論だそうです。

「火事だ！」と言ってこの吉良邸の門を開けさせ、見事本懐をとげた義士たちは、一路回向院へ。私たちも彼の地へ向かって、ゾロゾロと歩き出しました。

♡

当の義士たちは、回向院で入山を断わられ、この後永代橋へと向かうのですが、私たちは、勝手に(?)入ってお参りをさせて頂き、この後昼食場所の「あつま」へと向かいました。

名物の深川めしを頂いた後は、陽司さんの「講談ライブ」タイム。今日は、（プロがいて）いろいろとやりにくいとおっしゃっていましたが、ご当地両国に因んで、大相撲の力士の物語を熱演して下さいました。

江戸城大奥跡にて

初日で賑わう国技館をバスの中から眺めながら、次の江戸東京博物館へ。館内は、自由行動となり、思い思いに展示物を見学したり、甘味処で休んだりして過ごしました。

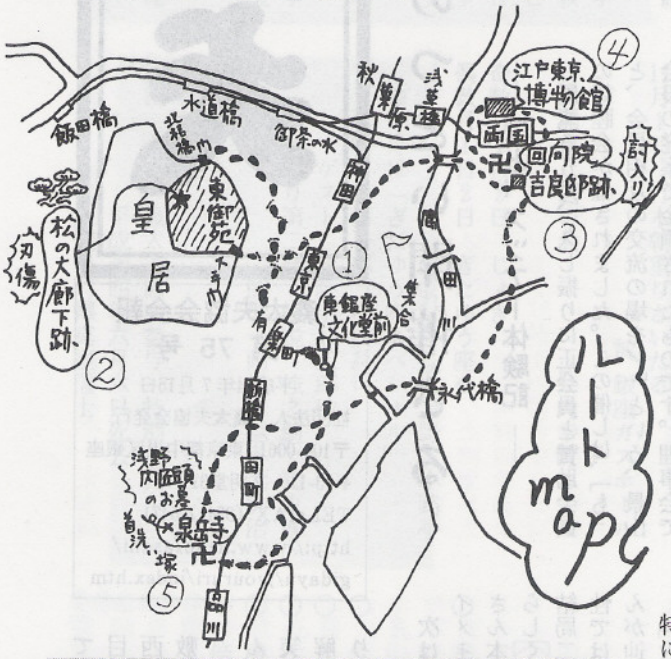
♡

最後の見学地は、泉岳寺です。永代橋から三時間かけて義士たちは、内匠頭が眠るこの寺へ討ち入りの報告に来たそうです。実際は四十四士で、残る二人は後のことを考慮して、幕府へ報告に行かせたとか。「さすが大石、念が入っている！」と、思いました。

毎年十二月十四日には、全国からファンが詰めかけ、お参りするのに何時間もかかるそうです。討ち入りから三百年に当たる今年は、一体どうなる事でしょうか。このご時世でも多額の寄付も集まり、今更ながら日本人の「忠臣蔵」の義士に対する、熱い思いと愛情を感じました。今日は、会員の皆様と共に、その「愛」を再確認し合う旅となった様な…。各々ひいきの義士にお線香をあげ、泉岳寺を後にしました。

♡

いつの間にか日も西へ傾き、一同無事に出発点の文化堂前へ、帰ってまいりました。皆々様、お疲れ様でした。（Y）



参加者からひと言

✎たのしかったよ～（男性）

✎両国生まれですが、余り来た事がないところを見学できて、楽しかったです。（男性）

✎正会員の方々との垣根がとれたみたいでうれしかった。（女性）

✎陽司さんの説明がよかったです。回向院についても詳しい説明を聞き、より身近に感じました。（男性）

✎今日、もっと賛助会員の方が大勢参加すると思って来てみたんですが……不満という訳ではないんですが。ツアーそのものは、楽しかったです。（女性）

✎日頃、肩衣姿しか知らないので、普段の正会員の皆様に初めてお目にかかった感じ…特にTさんのパンツスーツ姿は新鮮でした。（女性）

割烹あつまにてなごやかに昼食会

正会員 TOPICS

春の叙勲
朝重師に勲四等宝冠章

妹さんとご一緒に

4月29日に春の叙勲の受章者が発表され、協会関係者では竹本朝重師が勲四等宝冠章を受章しました。朝重師にとりましては96年の紫綬褒章、01年の伝統文化ポーラ賞に続いての慶事となります。

NHK古典芸能鑑賞会

五月二十九日（水）午後五時、NHKホールにて、花競四季寿「萬歳」「鷺娘」を十二丁十二枚にて上演、圧巻でした。

テレビ放映は、八月十八日（日）午後九時、NHK教育テレビでハイビジョン放送です。是非お楽しみ下さい。

尻高人形モンゴル公演に同行して

鶴澤津賀榮

リハーサル風景

群馬県吾妻郡高山村に古くから伝わる尻高人形芝居。今年は日本モンゴル国交樹立三〇周年を記念する年で、モンゴル国立人形劇団との共演という形で招待され、はるばる厳寒のモンゴルへと旅立つことになりました。私は三味線を弾くために同行。

頃は二月、零下二〇度とも三〇度ともおどかされていましたが、今年は比較的暖冬とのこと（私達が帰ってから寒波がやってきたそうですが）零下五～一〇度程度。でも深夜に到着したらやっぱり寒い。迎えの人達は毛皮の帽子。道も窓ガラスも凍っていました。

公演の前に伝統芸能鑑賞。モンゴル民話「スーホの白い馬」で有名な馬頭琴はもちろんのこと、胡弓や三味線も登場。伝統的な楽器だけで楽団になっていました。その楽団を従え、ホーミーの妙技。二つの声を一人で出せる。どうなっているの？近くで歌うところを見たい。歌うというより、震えるという感じかな。三味線はとても棹が長く、蛇皮のもの。欲しかったけど、ここはやっぱり馬頭琴をお土産に買いました。

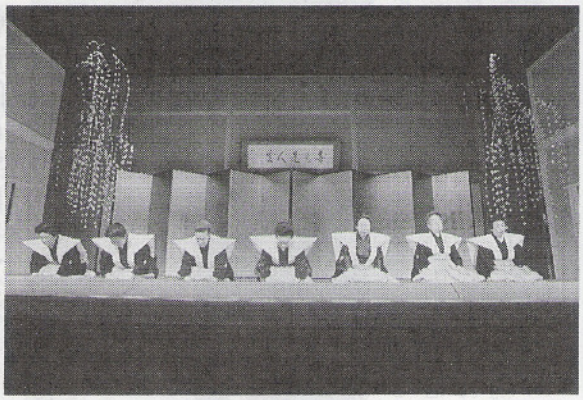
共演の国立人形劇団の人形はひょっこりひょうたん島を思わせる人形。劇団員は老若男女とりまぜて二〇名程度。最年少は十七歳の女の子。観客は子供達。たくさん見に来ていて、人形の問いかけに「ザー！（はい！）」と大きな声で返事をする。とても元気。

さて、しかし異国の芝居は理解できるものかどうか、こんなに観客が低年齢層だとは思わなかった。元気のいい分、やっぱりね、走り回られてしまいました。でも終演後ロビーで人形を前にご機嫌。日本語を話せる子供達もたくさんいてびっくり。

環境の違うところで演奏する大変さ、でも、そんなところでも分かり合える嬉しさを味わい、また、人形劇団の人達との交流が貴重な経験になりました。別れがつらかった。また行きたい、モンゴル。でも今度は暖かい時にね。

四代目　綾之助襲名記念公演――盛況のうちに終わる――

去る一月十六日、四代目竹本綾之助襲名記念公演が国立演芸場にて開催されました。おかげさまでかつてないほどの大盛況で席のないお客様にはロビーでお聴き頂くことになってしまいました。襲名の口上に続いて八王子車人形を迎えての「萬歳」、新綾之助は「吉田屋」を語りました。口上は女流義太夫の会では例のないことですので、ここに全文を掲載いたします。



華やかに口上で幕開け

駒之助

高座、御免を被りまして御挨拶申し上げます。まず以ちまして、かく満場御光来賜りましたお客様方には、ますます御機嫌麗しく、大悦至極に存じ上げ奉りまする。従いまして、こちらに控えおりまする竹本綾一こと、此度各師匠、諸先輩方、並びに御贔屓皆々様方及び義太夫協会よりの御推挙を頂き、竹本綾之助の四代目を襲名させて頂くことと相成りましてござりまする。御承知の通り綾之助の名跡は、東京におきましてはまことに由緒ある名前でござりますれば、本人の精進はもとより、御贔屓皆々様方の御力添えによりまして、新綾之助がますます立派な女流の太夫と成長致しまするよう、何卒宜しく御引立の程を偏にお願い申上げ奉りまする。続きまして義太夫協会を代表致しまして、竹本朝重より御挨拶を頂戴致しまする。

朝　重

明治から大正へ、もっとも大衆と密接に好まれました芸能は女流義太夫でございました。その中にも一際あでやかな大輪の花を咲かせましたのが、初代竹本綾之助でございます。綾之助が出演致しますと、辺り八丁四方の他の寄席は不入りとなりますほどの超人気。故に、「八丁荒らし」と言われました。さて、二代目綾之助は戦後、上野広小路本牧亭を女流義太夫の定席として長く月例公演を続けてまいれますように尽力を致しました大きな功労者でございます。今なお柳橋の師匠、二代目の恩顔が懐かしく思い起こされます。そして三代目は、初代の直門でございます。三代目綾之助は平成四年、身罷りますまで私共といつも同じ舞台にありまして、行動を共に致しました大先輩でございます。三代目はこよなく四代目を愛しまして愛情を注ぎましたが、四代目もまた恩師を想う心まことに清く切なるものがございます。必ずや四代目新綾之助、代々の綾之助同様その名を辱めぬ美しい花を舞台に咲かせてゆくことになると存じておりますれば、皆々様の御贔屓御引立のほどを偏に御願い申上げますと共に、当国立劇場演芸場女流義太夫演奏会が、ますます末広がりに発展していくことができますよう皆々様の御引立御後援を偏に御願い申し上げます。

駒之助

次に義太夫節保存会会長竹本越道より御挨拶でございまする。

越　道

皆様明けましておめでとうございます。また此度は四代目綾之助が生まれて、ああこんな嬉しい事はないと、もう皆様も協会の方々、また保存会、こぞって喜んでおる次第でございます。どうぞこの綾之助を立派になりますよう、これも皆お客様方あっての御贔屓のお

かげでございますので、何卒御後援を賜りまするようどうぞ宜しく御願い奉りまする。

駒之助

続きまして三味線方の豊澤幸治より御挨拶を致しまする。

幸　治

義太夫節の可憐な女性を語りましては、無類の美しい声とその人柄の優しさ、可愛らしさが芸に沁み出まして多くのファンの方々に愛されてまいりました竹本綾一、本日、四代目綾之助を襲名致しましたを機に、今迄築いてまいりました美しさ、可憐さの壊れることを恐れずに、これからは新しい役柄に挑み、一層芸の幅を広め、内容を深めるようにして頂き、それも偏に皆々様方におかれまして以前より一層御贔屓御後援を賜りますことを切に御願い申上げます。

『曲輪燁』より「吉田屋の段」を演奏
（左から綾之助、津賀寿、寛也）

駒之助

次に友人竹本土佐恵、竹本土佐子両人より御挨拶を申上げまする。

土佐恵

四代目綾之助御誕生おめでとうございます。私共の恩師、竹本土佐廣師のもとに三代目綾之助師が稽古にみえておりました。しばらくいたしまして、此度四代目綾之助となられました綾一さんをお連れになりました。それからは稽古場のお仲間として、共に稽古に励むことになりました。これが御縁となり、また両師匠の亡き後もこの縁を大切に致したいと存じまして、七回忌の折に「巴の会」を結成致しました。師匠方の教えを守り、また、新綾之助と共に更なる芸道の精進に努めていきたいと存じます。何卒暖きご支援を賜りますよう御願い申上げ御挨拶とさせて頂きます。

土佐子

四代目綾之助を御襲名になられますこと、心より御祝い申上げます。綾之助のお名前は私にとりましても御縁深いものでございます。私の手ほどきの師匠、竹本土佐尾は初代、二代目とお二人の綾之助の三味線を勤められたとうかがっております。その御縁にて私も二代目綾之助のもとに預けられた時代もございました。こうした御縁の御引合せもありまして、共に芸道に歩みまする身にとりまして、四代目の誕生はこの上もない喜びでございます。綾之助のお名前がますます大きくなられますことをお祈り申上げ、この後とても宜しく皆様御支援下さいますよう伏して御願い申上げ奉ります。

駒之助

この後は、御来場の皆様の御健勝と女流義太夫の発展を祈念し、なお四代目竹本綾之助をますます御指導ご鞭撻賜りまするよう隅から隅までずずいっと御願い上げ奉りまする。

御　礼

年明け早々の小雨そぼふる中、襲名公演をさせて頂きましたところ大勢の方々においでいただき感激に震えました。これも偏に関係者各位様の御尽力の賜物と有難く厚く御礼申し上げます。お陰様で四代目としてヨチヨチと歩き始めましたが、まだまだこの大きな名前に馴れずとまどうばかりでございます。御遠方よりの方々、先代からの古い御縁の方々にもお会い出来ましたのも嬉しい事でございました。芸の道は遠く果てしないものでございますが初心に返り勉強して参る所存でございます。沢山頂いた御好意も誠に申し訳なく心より御礼申し上げます。

竹本綾之助　拝

竹本人ものがたり

―竹本清太夫師の巻

①25歳頃、文楽にはいる時に撮ったもの

Ⅰ　義太夫との出会い

義太夫を初めて聞いたのは戦前、子供の頃から、その当時はテレビはないからラジオで。で何か摩訶不思議な感じがしてたんですよ。当時、洋楽から邦楽まで色々やってました。戦後はフランクシナトラとか、ナットキングコールの歌が良いなと思って、口ずさんだことも結構ありますけど（笑）

―ではなぜ義太夫を…

それはやっぱり歌舞伎を観たということだよね。「女猿回し」（「堀川」の与次郎女性版）を観て、その芝居には「そりゃ聞こえませぬ伝兵衛さん」もあって、浄瑠璃はそんなに変わらないんです。そのころだね、浄瑠璃を聞いて、ああ良いなと思ったのは。

Ⅱ　素義会に通う日々

実際に義太夫をやってみようということになったのは20、21くらいだね。その頃よく素人さんの会があったんで、それを聞きにいってた。そしたら何か、芝居観てるよりも浄瑠璃だけ聴いてる方が面白かった。堀川でも何でも合邦でも、浄瑠璃で聞いてる方がもっと胸にどんとくるようなものがあるっていう感じがしたわね。（小林将人青年は昭和31年、竹本東代春師匠に師事、翌年小林春路の芸名で横浜素義界にデビュー。37年には豊竹若大夫師匠に入門、豊竹若路大夫を名乗ります。）

Ⅲ　若大夫師匠のこと

1、師弟の盃

入門する事になって師弟のお盃というのをやったんですけどね。「盃じゃ」って、いや随分たいそうなものだなあと思ったけど。あと、魚の煮たのを出してくれたの。「この魚は鯛じゃないデ」ていうわけ。「物事はひらめかなきゃいけない。」っていうんで、鮃だってわけ。当時若大夫師匠のご一門は春子さんが筆頭で、今の嶋さんがやめられちゃったあとで、この間なくなった呂大夫さんがいたんです。英大夫さんはまだ高校生でした。

2、師匠のお世話のお話

（若大夫師匠はお目が不自由でしたのでお世話も大変だったそうです。）床にいく時のお世話では、お湯呑みの置き方。いい加減に置いたらお師匠さん目が見えないから、手でお湯呑みひっくり返しちゃう。見台のどこら辺に置いとくかってことや何かを、亡くなった呂大夫さんに色々聞いて、今いらっしゃる松香大夫さんにも随分聞いて。白湯汲みもたまにはやらしてもらって、その度に失敗して怒られてたけどね、ドジやって。

3、夜の本読み

師匠の家で、夜になるといつも本読みってのをさせられて、一口言っちゃ怒られ一口言っちゃ怒られ、「何や東京弁で語ったら三文の得もないデ」（師匠の雰囲気大阪弁で）なんていわれて。何で三文の得なんだろうってね。

②本牧亭で毎年暮れにあった落語・講談の方々の隠し芸大会での１ショット。右から順に林家正蔵、若大夫師、一龍斎貞山、桂文楽の各氏。文楽さんが壺坂、正蔵さんが太十、貞山さんが陣屋、三味線は素龍さんがお勤めになられていたそうです。

で、よく分からなくってね。自分が芝居がないときなんかは、組討教えてくれてみたり、柳を教えてもらったり。それから日吉丸、小牧山城中ってやつね。

4、師の印象に残る舞台

舞台で印象に残ってるのは、大阪の朝日座で、菅原の三段目（桜丸切腹）あれが良かったね。なんかもう、出からいいですね。「兄弟夫婦に引き分かれ」からずっとね、白太夫が腹切り刀もって出てくるところ「舎人桜が前に置き、用意がよくばとくとくと」ってところが大変厳粛な感じでやってました。それからあと八重のクドキ、「そなたも泣くな、アイ」ああいうところもへんに泣かないで語るからよけいに差し迫った感じが出ていたような気がするんですわ。（その後、41年まで文楽に在籍し、49年に歌舞伎竹本に「竹本清太夫」として歌舞伎の初舞台を踏まれます）

Ⅳ　本牧亭の隠し芸大会

―このお写真②はいつ頃ですか？

これはオリンピック頃（昭和40年頃）だったかな…高座の皆さん語ってらして「若大夫師匠が来てる」てことになっておいおいおい…（一同笑）楽屋内大騒動になったって話でね、「文楽の大夫に聞かれたんじゃやっちゃいられないね」って、どうしようどうしようということで。あとで楽屋で「お師匠さんよくおいで下さいました。私達みたいなこんな未熟なのが…」「いやいや、結構でした結構でした。もう詞や何かそりゃもう本職やなあ、うまいもんや～」なんて（笑）皆もう大歓迎。

Ⅴ　清太夫さんからのメッセージ

僕はとにかく、自分でね、いい物を聞いたら、あ、いいなあと思って、その方向に向けるように努力をする…。それしかないんじゃないですか。だからしょっちゅう色んなものを聞く、文楽、歌舞伎、洋楽の歌曲、色んな芸能を観て発見というのがあると思うんです。人生どんなお仕事でも皆「発見」じゃないかと思うんですよ。過去の名人なり名優なりって称された人達が残していってくれた発見の体験の上に、現代に生きている人達が現代なりの発見をまたしていくと思うんですよね。「これでもう完成品」というものは現世ではないと思うんです。

―どうも有り難うございました。

第五十四期義太夫教室修了

義太夫教室は期を重ね、平成十三年度五十四期生は、二月二十三日東京証券会館ホールにおいて卒業演奏を行い、三月十一日修了式を迎えました。修了にあたり皆様から寄せられた御意見、御感想の一部をご紹介させていただきます。

○たまたま新聞の情報コーナーで教室を知りましたが、受講することが出来て本当に良かったです。最近は文楽や歌舞伎を見に行った際、ヒアリング？……聞き取りの力がついてきたように思います。また教室は二十代の若い方も多くいろいろな年代の方と一緒に学べたことも楽しかったです。先生方、スタッフの皆様には心より御礼申し上げます。これからもよろしくお願い致します。

○五十三、五十四期の二期に渡り大変お世話になりました。三味線の当初はなかなか追いつけず身につかず、とてもご心配をおかけしました。イメージだけでは上達しないのを楽器を日々触ることの重要性を痛感しております。音が一応出せることになったことは、面白く楽しく感じております。嬉しいです。五十三期の同輩が成長してゆき、自分も深まってゆき、後輩の方々も増え、同じ道を通ってくるのは楽しいものですね。それにしても会社員にとってはやはり忙しいです。去年、今年に挑戦しておいて良かったです。有り難うございました。今後も義太夫と仲良くつきあってゆきたいと思います。

○初級のお講義、大変勉強になりました。中級になり実技（私は語りのみ）になりましたが、難易度は増すばかり、付いていくのがやっとという状態で、先生にはご迷惑のことだったと存じます。とにかく義太夫は難しいですね。今まで芝居でも文楽でも、役者さんや人形ばかり見ていましたが、教室受講以降は、竹本や語りの太夫さんの方が気になるように

なりました。今までお世話になりまして本当に有り難うございました。

○今まで謎だったことがいろいろとわかりました。たとえば太夫はどうやって語りを覚えているのかとか（丸暗記とは驚きでした。）やっと義太夫が近いもの、面白いものになってきました。義太夫を聞いて震えが来るほど感動したのも、今年初めて体験しました。これも自分が習ってみて、たくさん聞く機会があったおかげだと思います。言い足りないことはいっぱいですが、良い体験でした。

○講義はだいたい同じものを二度聴いたことになります。前期も今期も遅刻が多く、合わせて全部になれば良かったのですが、二度とも聞き逃してしまった授業もあって残念でした。ただ中級を受けた後に聴くと、なるほどと思える事が多く、以前はよく解らなかった事が、少しは理解しやすくなったような気がしました。習っている段の解説などもあると良いと思います。三味線は全く白紙に戻ってしまっていてボロボロ状態でした。マイ三味線を手に入れて嬉しいです。

○九月から半年の受講でしたが、とても充実した日々でした。全くの初心者が、六ヶ月で三味線を少しでも弾けるようになれたのには驚いています。語りでは、一人の詞を与えられてから緊張の連続でしたが、無事に舞台も終えられてホッとしています。先生方もとても優しく、わかりやすい御指導で、挫折も無く続けることが出来て感謝しています。本当に有り難うございました。

○初級が週二回から中級で週一回となるのが、負担が楽になる感じで続けやすくて良かったです。教室へ来るのが毎週とても楽しみでした。教室の雰囲気もとっても優しい感じが良かったのだと思います。邦楽の稽古をしたいと思っていたのですが、なかなか敷居が高そうで怖い感じでしたが、教室という制度は入りやすくていいですね。教室で義太夫を習ったおかげで、今では他の邦楽と比べて義太夫節が一番と感じるようになりました。

○朗読の勉強をしているので、一石二鳥を狙ってお稽古を始めました。緩急高低の音のとり方、息の遣い方、間の取り方など、相通じる事がたくさんありとても参考になりました。先生方も、とても熱心にまた辛抱強く指導して下さり感謝しています。事務局の方も、つかず離れず見守って下さり、また手助けがいる時はサッと差し伸べてくれるので、大変助かりました。語りは、実技と講義（作品の背景とか意味など）を並行してやっていただくと良かったかも……

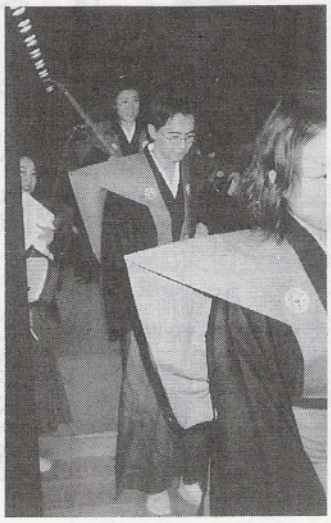
修了式を終えて

○毎回練習不足で先生方には大変申し訳ございませんでした。三味線は音の問題があり、思うように音を出して練習することができず残念でした。その分、語りはどこでも練習場でした。これからも続けていきたいです。ありがとうございました。

○一年間有り難うございました。あっという間だった気がします。熱心に教えて下さる先生に、練習しないので、なかなか付いて行けず苦労しました。お芝居に行って耳にする義太夫は思った以上に難しかったです。なかなか声は出ないし……節がわかりずらく、いつまでたってもお経のような感じが抜けませんでした。こんな難しいものを……と、恨めしくも思ったりしました。なんとなく楽しくなりかけた時に終わってしまって残念です。今後はどうしようか、と思っているところですが、やめてしまったら終わってしまうので、何とか続けてみたいと思います。御指導下さった先生方、お世話になった協会の方々、本当に有り難うございました。

紙面の都合で一部しか御紹介できないのが残念です。さて、今年度、第五十五期義太夫教室は初級を五月二十八日～七月二十五日、中級は九月～平成十五年三月まで、空間ＷＮを会場として開講されます。また、それぞれの開講の前に、一日体験教室が例年通り催されます。

54期生　OB会アルバム



最後のステージを終えて

幕があく直前・緊張の時

協会の動き

'02年1月より
'02年6月まで

1月4日　仕事始め
CPRA、SARAH申請書提出
1月7日　じょぎ委員会　於 協会資料室
義太夫教室稽古はじめ
1月10日　ルネッサながと浄瑠璃、三味線教
〜12日　室　於 ルネッサながと
1月16日　女流義太夫演奏会・四代目竹本
綾之助襲名公演「吉田屋」他
於 国立演芸場
1月18日　じょぎ委員会　於 協会資料室
理事会　於 松竹第2会室
正会員新年会　於 つきじ亭
1月20日　乙女文楽出演　於 港北公会堂
1月22日　日本音楽大集合出演
於 国立小劇場
2月1日・2日　「ぎだゆう座」二日間
於 上野広小路亭
2月8日　PAN運営委員会
於 芸団協会議室
2月23日　義太夫教室OB演奏会
於 東京証券会館ホール
2月26日　女流義太夫演奏会　伝承者研修発
表会「重の井子別れ」他
於 国立演芸場
2月28日　ルネッサながと浄瑠璃、三味線教
〜3月2日　室　於 ルネッサながと

3月1日・2日　「じょぎ」公演二日間　於 上野広小路亭
3月1日　芸団協功労者表彰式　於 東京会館
3月2日　東京都邦楽演奏会　於 国立小劇場
3月15日　乙女文楽ビデオ収録　於 平塚中央公民館
3月18日　芸団協総会　於 オペラシティ会議室
3月21日～3月23日　ルネッサながと浄瑠璃、三味線教室　於 ルネッサながと
3月26日　女流義太夫演奏会「野崎村」他　於 国立演芸場
3月27日　乙女文楽ビデオ収録　於 藤沢市民会館
4月1日・2日　「ぎだゆう座」二日間　於 上野広小路亭
4月11日～4月13日　ルネッサながと浄瑠璃、三味線教室　於 ルネッサながと
4月13日　一日体験教室　於 空間WN
4月15日　公演部会　於 協会資料室
4月16日　邦楽会議総会　於 芸団協会議室
4月25日　女流義太夫演奏会「菅原伝授手習鑑」　於 国立演芸場
5月1日・2日　「じょぎ」公演　二日間　於 上野広小路亭
5月8日　編集部会　於 協会資料室
5月12日　会員親睦バスツアー
5月22日　女流義太夫演奏会「道春館」他　於 国立演芸場
5月28日　義太夫教室第55期開講式　於 空間WN
5月29日　NHK古典芸能鑑賞会出演　於 NHKホール
6月1日・2日　「ぎだゆう座」二日間　於 上野広小路亭
6月19日　女流義太夫演奏会「花雲佐倉曙」　於 国立演芸場

今後の予定

9月28日　長月会　於 上野広小路亭
10月29日　竹本越孝の会　於 内幸町ホール
11月1日　竹本朝重りさいたる　於 銀座ガスホール
11月30日　巴の会　於 内幸町ホール
奇数月1日2日　じょぎ
偶数月1日2日　ぎだゆう座※
いずれも　於 上野広小路亭
※8月は「ぎだゆう座スペシャル」
六時より第一部　相撲甚句
ゲスト　元呼出し三郎他
七時より第二部　解説　佳之助・喜恵博
関取千両幟　越孝・駒治

〈物故者〉
和田　博　義太夫協会参与・特別会員
平成十四年六月六日死去
（戒名）釋真證信士

〈寄付〉
一義会様　二十万円
竹本綾太夫様　二十万円
四代目竹本綾之助襲名披露公演諸経費として
竹本綾之助様　二十万円
大日本素義会様　三万円
松尾千枝子様　一万円

〈寄贈〉
鶴澤宏太郎様　上り糸
野澤　松也様　上り糸

〈訂正〉
会報第74号3頁1段目
24行目　物　トル
来→末

〔編集後記〕

○季節のうつり変わりが早くなっても、我々のスピードは相変わらず。マイペース　（T）
○今年は阪神優勝か？　（Y・新K）
○そうは問屋がおろさない。　（S・M）
○みんなで道頓堀へ!!　（K4・H）
○清太夫氏のお話、全部（今回掲載分の十倍位）載せられないのが残念です。　（新S）